

地域資源（山菜等）を活用した商品開発・販路開拓

- ◆振興山村名：平取村
- ◆事業実施主体名：平取町
- ◆事業実施期間：H27～H29
- ◆交付決定額：9,255千円



◎主な事業内容と効果

地域資源として「びらとりトマト」などの農作物や「ニシパの恋人」の特産品が市場で確立されているが、生産過程及びトマトジュース製造過程で排出されるトマト残渣が相当数あり、また、トマトを栽培するためのビニールハウスの熱暖房はほとんどが灯油を燃焼しておりその消費量は膨大となっていた。

そこで、規格外品トマトを活用した商品開発や加工残渣の有効活用、トマトの栽培用燃料として、林地残材等による木質バイオマスエネルギーへの転換ができないか検討した。

これにより、商品化にあたっては、既に海外へ事業展開をおこなっている鹿児島県の「やねだん」の商品製造から販売方法に関するノウハウを学ぶとともに相互連携を図り、北のトマトパウダーと南の唐辛子のコラボレーションの商品開発、さらには地域で取れる山菜を活用した「行者にんにくパウダー」へと発展し、生産方法と活用方法の検討を重ねた。

地域活性化の観点のスローガンに情報交換及びネットワークを構築することができた。

◎目標値の設定

- ①雇用の拡大 ～ 2年目（1名）、3年目（2名）
- ②所得目標 ～ 2年目（200千円）、3年目（2,000千円）
- ③活動参加人数 ～ 1, 2年目（10名）、3年目（15名）
- ④商品開発数 ～ 1年目（1つ）、2年目（2つ）、3年目（3つ）
- ⑤商品販売額 ～ 1年目（100千円）、2年目（600千円）、3年目（4,000千円）
- ⑥海外取引数 ～ 3年目（1件）

◎事業のココがポイント

地域内におけるトマト生産者、飲食業者、福祉事業関係者、並びに地域外の地域づくり団体等のマッチングを行い、農産品加工販売を図る。

◎事業実施において苦慮したこと

新商品開発や販路の開拓はノウハウが不足していたため、事業展開に苦慮した。